

研推だよりNo.2



令和4年
4月7日
研究推進部

令和4年度がスタートしました。今年度もコロナ禍の中でも1+1を3にも4にもできる工夫をみんなで考えて、子供たちの充実した学校生活を三小みんなで支えていきましょう。

さて、今年度の校内研究の方も本格始動です。今年度は昨年度の研究の成果や課題を引き継ぎながら、児童の思考力や表現力をいかにして高めていくか、また、そのためにICTはどのように有効活用されていくべきか、ということを中心にテーマにして研究していきます。明日の研究全体会で、研推より詳しい内容を提案させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

1 第1回研究全体

<第1回 研究全体会>

日時：令和4年4月7日（木） 場所：職員室

1. 校長先生からのお話 （校長先生）
2. 今年度の研究について （研推委、分科会）
 - ・ 昨年度からの経緯
 - ・ 研推からの提案
 - ・ 分科会で話し合っていたきたいこと→①目指す児童像
②どんな工夫ができるかな？（手立てにつながる部分）
3. 終わりの言葉 （副校長先生）



2 研究組織（校内全体）



研究推進委員会

研究内容、方向等について協議し、研究についての企画・立案・推進を行うとともに、各分科会、分掌との有機的な連携を図る。研究に関わる情報の収集・発信を行う。

研究推進委員会 8名：水流、中島、藤原、松田、松澤、本田、佐藤、渡部

拡大研推

研究推進委員と授業を行う分科会のメンバー（授業者等）で、研究主題や手立てと研究授業の内容とがどのように関連しているか等の指導案検討を行う。

参加者：研究推進委員、研究授業を行う分科会

授業を行う分科会は、授業2週間前を目途に指導案作成、授業のプランニングを行っておく。

研究全体会

全員で、研究の進め方や内容を共通理解し、研究授業・協議会を重ねて、成果や課題を明らかにしながら研究の蓄積を行っていく。

参加者：全教員

研究分科会（仮）

教員を4つのグループに分けて、低学年、中学年、高学年、すずかけ分科会を組織する。専科教員・養護教諭も含め、分科会には全教員が所属する。研究分科会では、研究主題と児童の実態を踏まえて授業研究を行い、その結果出てきた成果と課題を分析し次の授業に生かしていく。

* 下線は研究推進委員で、それぞれの分科会で責任者を立てる。その責任者が分科会の中で中心になって進めたり、研究全体会での分科会報告などを行ったりする。

| 低学年分科会 | 中学年分科会 | 高学年分科会 | すずかけ分科会 |
|-------------------------|-----------------------|-------------------------|-----------------------|
| 1・2年担任、専科 | 3・4年担任、専科 | 5・6年担任、専科 | すずかけ、専科 |
| 藤原、一倉、吉野 横山、水流、豊田、片倉 | 松田、林、竹内 松澤、寛、山口、阪井 | 中島、升田、小松 本田、澤登、藤山、板場 | 佐藤、内野、福柗、 山中、森田、渡部 |

R5年度の研究発表を見越して、この組織図とは別に発表に向けての実務的なチームの立ち上げが学校全体で必要になるかもしれません。研究が深まり必要な準備などが具体化してきたら、研推よりご提案します。御協力よろしくお願ひします。

R 4 研究構想図（に将来的になるもの）

<児童の実態と本校の課題>

- ① 自分の考えを表現したり、発表したりすることに自信がもてない児童が多い。
(児童アンケートより)
- ② 自分の考えをもったり、考えを深めたりする力が十分ではない。
(昨年度の研究より)

<社会的な背景から求められる資質・能力等>

- ①学習の基盤となる情報活用能力の育成
(学習指導要領総則)
- ②児童1人1台のタブレット配布など、急激に進展する学校現場でのICT環境整備への対応
- ③児童の発達段階や各教科の特質を考慮し、教科等横断的な視点をもった情報活用能力の育成 (情報活用能力#東京モデル：東京都教育委員会)



研 究
主 題

**思考したことを、豊かに表現する児童の育成
～ICT 機器の効果的な活用を通して～（仮）**

研 究
仮 説

ICT機器を効果的に活用すれば、思考を深めたり考えたことを適切に表現したりする児童が育つであろう。（仮）



| | 高学年分科会 | 中学年分科会 | 低学年分科会 | すずかけ分科会 |
|--------|--------------------|--------|--------|---------|
| 目指す児童像 | ①最初に話し合うところ | | | |

| | | | | |
|-----------|--|--|--|--|
| 思考を深めるには？ | | | | |
|-----------|--|--|--|--|

②2番めに話し合うところ

表現する力を
高めるには？

3 研究組織（研推内）

研推内で分担が済み次第、お知らせしま

| | 分掌 | 内容 | 担当 |
|---|----------------|--|----------|
| A | 校内研究の運営 | ○三部会の司会進行 ○管理職や外部との連携折衝 | 水流 |
| B | 研推便りの発行 | ○決定事項や検討内容の校内周知 | 中島 |
| C | 家庭向け校内研究通信 | ○家庭に校内研究の取り組みが伝わるような通信の発行 | 中島 |
| D | TTT推進 | ○タブレットタイムの推進 ・各学年の内容調整（1年かけて） ・取り組みの紹介、校内共有 | |
| E | タブレットに関わる保守・管理 | ○タブレットの保管や運用方法の校内統一化 ○タブレットの破損や修理に関わる窓口 | 副校長 |
| F | 児童向けタブレットルール | ○タブレットルールの発行 ・内容の検討（1年かけて） ・印刷、配布 | |
| G | タブレットスキル系統シート | ○児童に身に付けさせたいタブレットの活用スキルの系統化 ・内容の検討 | |
| H | 年度末・年度初めの移行処理 | ○年度末処理、年度初め処理 ・詳細は別紙参照 | 板場 松澤 |
| I | 児童アンケート | ○年2回の児童アンケート実施 ・校内研の成果と課題を、児童の実態調査から見取る。 ※Formsの活用推奨 | |
| J | キーボー島のID管理 | ○児童用キーボー島のID管理 ・年度初めの学年移行処理 | (小松) |
| K | 素敵な写真コンテスト？ | ○今年こそやる…のか？ ・写真コンテストじゃなくてもいい…のか？タブレットが盛り上がるやつをやる…のか？ | |
| L | ミニ研推進 | ○若手の先生方（本校が1校目の先生）を中心とした校内における指導力向上研修 | 中島 |

4 TTT

- 毎週金曜日の朝学習**の時間を活用してタブレットの操作スキルや各コンテンツを通じた学習内容の復習など。
- タブレット操作で身に付けさせたいスキルの中にも**教科の学習と関連させる中で自然と学ぶ必要性がでてくるものもある**。学年ごとに2学期以降の年間指導計画を確認して、タイミングを合わせて取り組めるようにする。
- 学校全体での取り組みや学年内での取り組み方を工夫して、タブレットに触れることへの目的意識をもって学習できるようにする。

例1) 「三小ギネス」で「素敵な写真コンテスト」開催！児童から写真募集！

例2) スタンプカードを作成して、できるようになったらスタンプがたまってい



この紙を1部、中島机背中までご提出ください。

5 研究授業 希望調査

学年 () 授業者名前 ()

第1希望から第3希望を決めて、以下に○を記入をしてください。

| | 6 / 1 | 7 / 6 | 9 / 2 1 | 1 2 / 7 | 1 / 1 1 |
|------|-------|-------|---------|---------|---------|
| 第1希望 | | | | | |
| 第2希望 | | | | | |
| 第3希望 | | | | | |
| 備考 | | | | | |

※どの日程も水曜日です。一応1 / 1 1も予備日なので希望してもアリです。

→ 4月18日(月)までに中島椅子背もたれまでお願いします。